

## 繊維業界等におけるフッ素化合物の自主的規制

本年度第 1 回の検討会后、繊維業界等におけるフッ素化合物の自主的規制等について日本産業洗淨協議会の前野委員にヒアリングした結果を以下に示す。

### <規制の状況>

- NGO 団体グリーンピースの使用自肅要請に応じる形で、株式会社ファーストリテイリング(子会社に株式会社ユニクロ等)、アディダスなどでフッ素化合物系の防水・防汚剤の自主規制が始まっている<sup>1</sup>。
- エレクトロニクス業界、トイレ・風呂・台所用品業界も追従する方向で、現在、材料メーカーにフッ素フリー材料の提案を呼びかけている。  
ただし、これらの用途はフッ素化合物が口から入る可能性は低いので、ここまでする必要があるのか疑問である。
- 食品産業において、ハンバーガーの包み紙、紙容器などのフッ素フリー化が始まっている。シリコーンコーティングやポリエチレンラミネート紙などに代替しているが、代替紙にすると再生(再利用)ができなくなるので新たな問題となっている。
- 炊飯器やフライパンなどはDLC(ダイヤモンド・ライク・カーボン)コーティングなどの新技術が出てきたので検討を開始する会社が増えている。

### <ドライクリーニングへの影響>

- ドライクリーニングに対する耐久性が変化する可能性がある(汚れが落ちにくくなる、乾燥しにくくなる)。耐久性が変化すると、ドライクリーニングに使用する溶剤が変わる可能性がある。
- フッ素コーティングにより、染料落ちの防止、汚れ付着防止(選択時間の短縮)、耐溶剤性付与、乾燥時間の短縮ができていたが、洗淨剤をケミカルアタックの強い溶剤にすると染料落ち、繊維の傷み、他種コーティング剤の脱落、乾燥時間増大による繊維の傷みなどが懸念される。

<sup>1</sup> 参考:株式会社ファーストリテイリング HP  
(<http://www.fastretailing.com/jp/csr/environment/zero.html> ※2017年1月5日閲覧)